

岡山市某所で急速に勢力を拡大する外国産タナゴ

岡山淡水魚研究会 青 雅一

2014年3月、当会の創立以来40年間に一度もスイゲンゼニタナゴの捕獲記録のない岡山市某所の河川で、スイゲンゼニタナゴと思われるタナゴが捕獲された。小型の個体であったのと、雌であったため、多くの会員はスイゲンゼニタナゴと信じていた。しかし、一部の会員からは疑問視する声上がり、スイゲンゼニタナゴに詳しい会員を交えて写真判定の結果、「おかしい！」との結論を得た。同年秋の調査では、スイゲンゼニタナゴよりもやや大型で「似て非なるタナゴ」が多数捕獲された。コンサルタント会社の調査でも同様の結果が得られ、三重大学へ鑑定のためのサンプルが提出された。鑑定の結果、①カゼトゲタナゴ ②中国産の *Rhodeus notatus* ③DNA 未記載種（おそらく中国産とのこと）④ ①②の交雑種 であることが、毎年岡山市で開催される「アユモドキ・スイゲンゼニタナゴ保全専門家会議」で2015年3月に報告された。当会では、便宜上、このタナゴを「スイゲンモドキ」と呼んでいる。

この河川には上記の国内移入種、外来種、両者の交雑種のほか、タイリクバラタナゴ、オオクチバス、ブルーギル、カムルチーが生息する。広島県福山市でスイゲンゼニタナゴの保護活動をしておられる古本氏が撮影した水中の様子を見ると、スイゲンモドキが主体を占めるほど多数生息していた。最初の発見からわずか2年間で爆発的に増加しており、恐るべき繁殖力である。今回、古本氏からいただいた動画を供覧する。中国四国地方環境事務所も岡山市環境保全課も「予算がない」とのこと、駆除対策には全く手がつけられていない。また、他所への拡散を防ぐ意味でも、公表できない状態にある。



当会は会員の高齢化が進む



およそ 2/3 はスイゲンモドキ
(水中写真提供は盈進高校 古本哲史氏)